

【計画】5-3 海水温上昇等による瀬戸内海の水産生物や養殖への影響調査

【分野:水産業、対象地域:岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、鳥取県、島根県】 地域適応コンソーシアム

中国四国地域事業

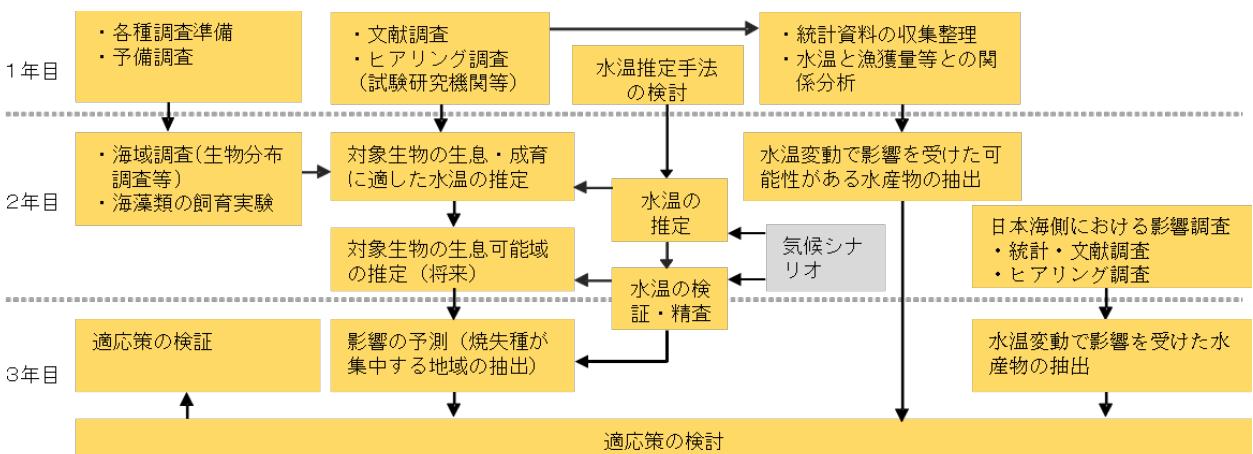
■目的

- 気候変動に伴う海水温の上昇は、水産生物の生息・生育範囲の変化や減少を引き起こすと予想されており、その結果、漁獲量の減少など水産業への影響をもたらすことが懸念されている。
- 本調査では、瀬戸内海沿岸を対象地域とし、水温上昇による養殖漁業の時期の変化や、食害魚を中心とした野生魚類への影響を予測し、その適応策を検討する。また、飼育実験等により適応策の検証を行う。

※調査対象は、瀬戸内の代表的な水産生物であるカタクチイワシ、カキ、ノリ・ワカメと、食害魚であるアイゴ等。

※平成30年度より日本海側の調査を追加実施している。

■ 調査計画



飼育実験(ワカメ)のイメージ



(左:飼育実験室／右:飼育実験イメージ)

※広島大学で撮影

■ 実施体制

(株)地域計画建築研究所
(アルパック)

- 予測結果のとりまとめ、
適応策の検討
- 全体マネジメント



- 既存知見の集積
- ベースライン情報の整理
- 調査対象生物の水温に対する影響予測
- 飼育実験、海域調査
- 海水中DNAの調査
- 水温推定手法の検討
- 気候シナリオを用いた水温の推定、精査
- 既存知見等の提供、各種調査等への支援